

「ジュニア考古学応募作品展」と冬期企画展「岩橋型横穴式石室の始まり」

いよいよ年末のあわただしい時期となりました。特別展『黒潮の海に糧を求めて』は、多数のご来館者を迎え盛況のうちに終了いたしました。ここに厚く感謝申し上げます。

さて紀伊風土記の丘での今後 2 カ月の間に実施予定の企画展及び行事について簡単に触れておきたいと思えます。

まず展示では、12月18日（火）から1月14日（月）の予定でミニ展「ジュニア考古学応募作品展」が行われます。この展示は和歌山県内の小・中学生を対象として県内の考古学や歴史学に関する研究成果を発表するもので、すでに9月1日から11月11日の間に募集されたものです。ちなみに今回は小学生の部で5名、中学生の部で20名、小・中学生ともに団体部門の応募はなく、全員個人応募でした。厳正な審査の結果、小学生の部の最優秀賞は、岩橋直也さんの「和歌山の古墳～紀北と紀南の石室の違い～」、中学生の部は橋詰いぶきさんの「石見型埴輪について」が選ばれました。他の応募者についても優秀賞と決して引けを取らない内容で、甲乙つけがたい内容であります。ぜひ将来の研究者を目指す方々の作品をご覧ください幸いです。

来る1月19日（火）から3月3日（日）には冬期企画展「岩橋型横穴式石室の始まり」が開催されます。

風土記の丘を構成する特別史跡岩橋千塚古墳群での最新の発掘調査などの成果をもとに横穴式石室が導入された6世紀初めの頃の岩橋千塚古墳群の特徴について紹介するとともに全国的にみても特異な形式である岩橋型と呼ばれる石室構造の発展についても見ていきたいと考えております。

以上のほか、1月16日（水）に当館職員の富加見泰彦氏による「おしゃべり考古学」があります。ここでは豊富な経験をもとにして含蓄ある考古学の話題についてユーモアを交えながらのお話には定評があり、毎回楽しんでいただいております。

この「おしゃべり考古学」をはじめ1月27日には連続講座「岩橋千塚9」が実施されます。講座は県下の考古学研究者と館学芸員の各1名が担当して、岩橋千塚をめぐる諸問題を分かりやすく解説していく内容です。いずれも館内講座室で開催いたします。